

「非認知能力を育てる夏休みに」



7月に入りました。先日の期末保護者会へのご参加ありがとうございました。まもなく、夏季休業が始まります。校長室だより第13号でもご紹介したように、今「非認知能力の育成」が重要視されています。そして、それは家庭で取り組めることもたくさんあると言われています。期末保護者会でも夏休みの過ごし方についての話題が多く出たと報告を受けています。この夏季休業で「非認知能力」を育てることに取り組んでみませんか。復習になりますが、非認知能力とは、テストでは測れない「やり抜く力」「思いやり」「自己コントロール力」「協働する力」「主体性」などの力です。

お茶の水女子大学教授、浜野 隆先生著の「子どもの才能を伸ばす最高の子育て」という本の中に書いてある内容を引用し、夏休みの家庭での過ごし方について提案をしたいと思います。お忙しいとは思いますが、少しでも参考になればと思います。

1 「自分で決める」機会を増やしましょう

子どもが自分で考え、選択し、行動する経験は主体性を育てます。例えば、

- ・今日の学習計画を自分で立てる
 - ・読む本を自分で選ぶ
 - ・家族の外出計画の一部を考える など、小さなことから構いません。
- 大切なのは、親がすべて決めるのではなく、「どうしたい？」と問いかけることです。

2 家庭での役割を持たせましょう

家庭の一員として責任を果たす経験は、自立心や責任感を育てます。例えば、

- ・食卓の準備
- ・洗濯物たたみ
- ・風呂掃除
- ・ペットの世話
- ・買い物の手伝い などです。



「ありがとう、助かったよ」と認めてもらう経験が自己肯定感につながります。

3 結果より「頑張り」を認めましょう

非認知能力を育てる上で大切なのは、結果だけを評価しないことです。例えば、
×「100点取れてえらい」ではなく、

- 「毎日続けて頑張ったね」 ○「難しいことにも挑戦したね」
- という声かけを意識してみてください。

努力や挑戦を認められることで、粘り強さや挑戦する意欲が育ちます。

4 家族で対話する時間を大切にしましょう

家族との会話は、思考力やコミュニケーション能力、他者を理解する力を育てます。例えば、

- ・今日一番楽しかったこと



- ・最近気になっていること
 - ・ニュースについてどう思うか など、日常の話題で構いません。
- 子どもの話を途中で遮らず、最後まで聞くことが大切です。

5 失敗を成長の機会にしましょう

失敗しないことよりも、失敗から学ぶ経験が大切です。忘れ物をしたり、計画どおりにできなかったりしたときには、「どうしてこうなったかな？」 「次はどうしたらいいかな？」と一緒に考えてください。

失敗を責めるのではなく、学びにつなげることで、問題解決力や自己調整力が育ちます。

6 自然や地域、人との関わりを増やしましょう

夏休みは、普段できない体験をする絶好の機会です。

- ・地域行事への参加
- ・ボランティア活動
- ・自然体験
- ・祖父母との交流
- ・友達との協力活動



など、多様な人や環境との関わりは、思いやりや協働する力を育てます。

子どもの成長にとって大切なのは、「できるようにしてあげること」ではなく、「自分でできるようになるまで見守ること」です。浜野先生は、子どもの自立を支える関わりこそが非認知能力を育てると述べています。

夏休みは、学習だけでなく、生活や体験を通じて大きく成長できる期間です。ぜひ、ご家庭ならではの経験を通して、お子さんの「やり抜く力」「思いやる力」「自分で考える力」を育てていただければと思います。

「失敗しても大丈夫。挑戦したことが素晴らしい。」

そんな温かい励ましが、子どもの非認知能力を大きく伸ばします。

この書の中の「非認知能力」を伸ばす「子育て 10 か条」を紹介します。

第1条 親子の間に対等な人間関係をつくること

第2条 親は子どもの安全基地になること

第3条 子どもに「勝ち負けの言葉」を使わない

第4条 子どもの言語や行動を共感的に受け止め、受け入れる

第5条 ほかに子どもとは比べず、その子自身が以前より進歩したときに承認し、ほめる

第6条 裁判官のように禁止や命令ではなく、「～したら？」と提案の形で「対策」を述べる

第7条 教師のように完璧な・詳細な・隙のない、説明や定義を述べ立てない

第8条 子ども自身に考える余地を残す働きかけをすること

第9条 親は「待つ」「見極める」「急がない」「急がせない」で、子どもがつまづいたときに支え、足場をかけ、子どもが一歩踏み出せるように、わきから助けてあげる

第10条 子どもとともに暮らす幸せを味わおう

